

彦根三湊

米原湊跡

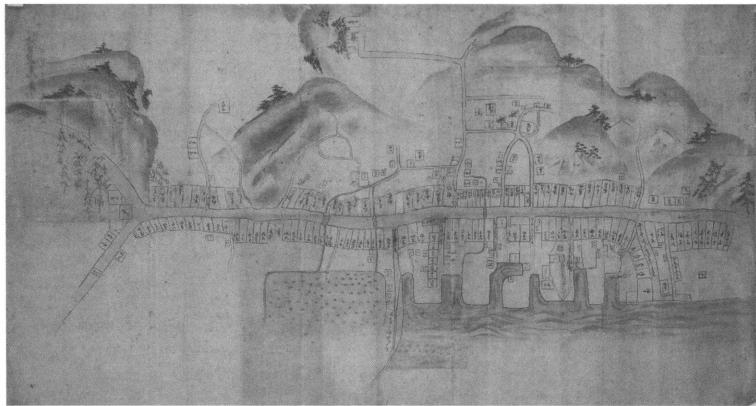
あさ づまみなと
米原湊は朝妻湊の南に位置し、現在のJR米原駅付近にありました。中世以前、畿内と東国とを結ぶ湖上ルートは朝妻湊が琵琶湖の入口でした。しかし、朝妻湊は天正年間(1573~92)に「長浜湊」が、慶長8年(1603)には、彦根藩によって「米原湊」が開かれると次第に衰退していきました。彦根城下の松原湊、北国街道につながる長浜湊と米原湊は、彦根三湊とよばれ、協同した行動をする一方で、近接しているために競争相手でもありました。

琵琶湖第2の内湖・入江内湖に臨み、磯川を通じて琵琶湖に開かれた米原湊は、中山道の番場宿じゆくへ通じる美濃路方面への物資輸送の拠点でしたが、鉄道の開通、昭和19年着工の内湖の干拓でその役目を閉じました。

○ 米原湊は、慶長8年(1603)、彦根藩の命で世継村の北村源十郎により開削されました。合わせて番場宿からの深坂道も整備され、朝妻湊との争論を経て彦根三湊として栄えました。

江戸時代、米原の本陣であった北村源十郎家は、荷物の運送を取り次ぐ船問屋を営む一方で、数艘の船を持つ船主でもありました。米原湊で輸送を担ったのは丸子船と舡船でした。丸子船は、琵琶湖に独自に発達した船で、百四十石積以上の大型船が大津と米原を結んでいました。



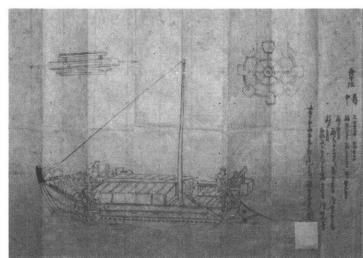


「米原湊絵図」
(滋賀大学経済学部附属史料館蔵)

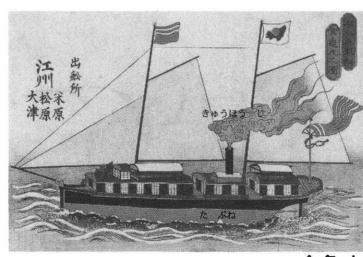
宝永元年(1704)に描かれ、寛保2年(1742)に写された米原湊現存最古の絵図です。慶安5年(1652)頃には五ヶ所の船着場でしたが、本図では六ヶ所に増えています。街道沿の家並は、湊の繁栄とともに広がり、各船着きには「クラ」などの施設がみられます。



北村源十郎家古写真
(滋賀大学経済学部附属史料館蔵)



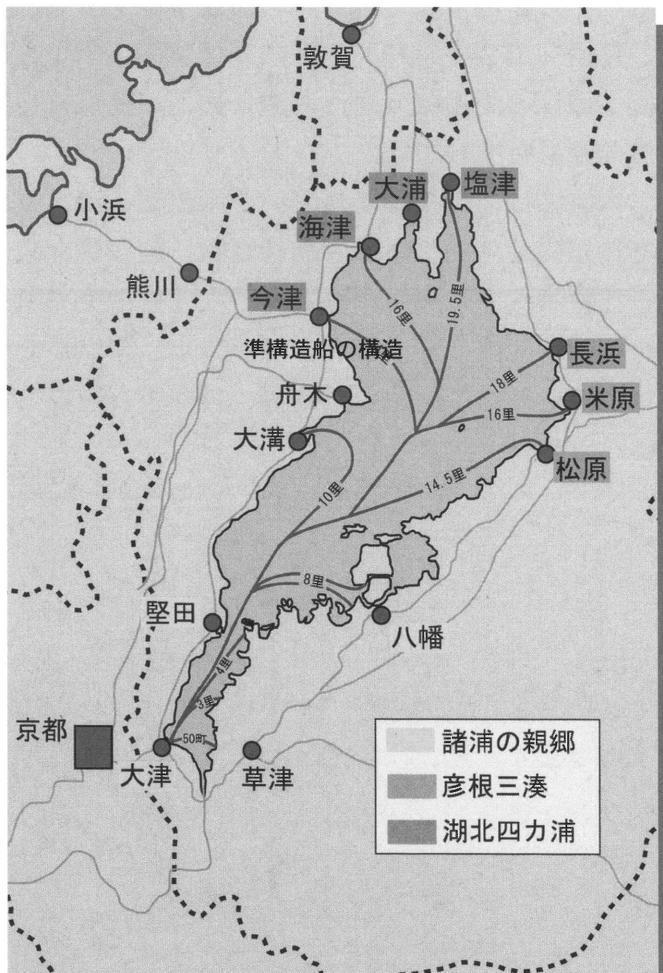
「嘉永五年車早船新造図」
(滋賀大学経済学部附属史料館蔵)



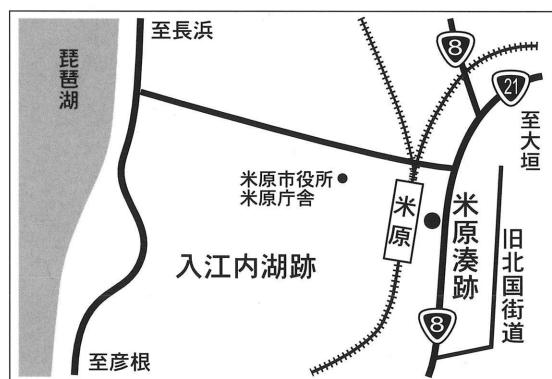
金龜丸

車早船とは、小型の丸子船の前方両側に車を付けた外輪船で、天候に左右されず、安定的に人を運ぶために考案されました。米原湊ではなくとも10年間航行していました。

明治2年(1869)一番丸が琵琶湖に就航してから、明治22年の東海道線全線開通まで、蒸気船が大量輸送の主役でした。三番目に就航した金龜丸は大津ー米原間を結びました。



江戸時代の琵琶湖の諸浦



米原湊跡

- 所在地 滋賀県米原市米原
- アクセス JR東海道線米原駅東口一帯。

米原市教育委員会

滋賀県米原市長岡1206番地 TEL.0749-55-8106
平成21年度 埋蔵文化財活用事業